

幼稚園と尋常一年との聯絡について (二)

東京府女師附屬主事 木下 一雄



(1) 序 論

前回に於て私は幼稚園と尋常一年との教育目的の歴史的敘述をなしたのであるが、第二に私はこの目的に基いて、更に初期の教育をその教育材料から考察しようと思ふ。

材料を決定する二つの方面(社會的心理的方面)——前述の如く在來の小學校と幼稚園の教育目的に關しては、相對照さるべき二つの傾向が認められた様に、その教育材料の選び方にも必然的にこれに伴ふ二方面が存したのである。即ち小學校は生活に必須な普通の知識といふことの主旨に會ふ様に、讀方書方算術等の教科の傳達に重きを置くやうになり、幼稚園は矢張りルソーの思想に據つて教育の中心を「生活に必須なるもの」に置くのでなく、「幼兒に適應するもの」換言すれば、幼兒の自然の發達を助成し、善良な性情を養ひ幼兒としての生活を完了せしむることを眼目として、それに適應するやうな材料を選んで居るのである。

併しながら今日の小學校殊に低學年にあつては既に大いに面目を改めて、學習は常に兒童の遊戯とか興味とか本能とかに結びつけられて居る。この事は特に讀方教授に於て見る事が出来る。兒童の程度に困難なる材料も生活に必須なるといふ理由のために課せられたものが、今日に於ては少くもそれらの材料が兒童の本來有する強い興味關心と出来るだけ調和されるやうに形式を變へるに至つた。その結果として幼稚園の教育の主なる材料と見做された心理的の方面が、小學校に大いに顧慮さるゝに至つたのである。

最近これらの教育材料について、主としてスペンサーやソーンダイクその他心理學者哲學者等に據る方法が行はれて居る。右によれば廣義の社會的教育材料は、1 身體の健康、2 趣味の教養、3 善良なる意志、4 社會奉仕 (a 職業、b 家庭、c 公民、d 協力同情) 等を標準として選擇さるべく、心理的材料としては、1 知識、2 慣習、3 理想、4 多方的興味を目標となすべきことが主張されて居るのである。これらの材料が重要なものであることは、こゝにいふまでもないことである。

(2) 社會的環境について

一般目的——聯絡統一せられたる幼稚園並に尋常一年の教育に基いて、社會的環境を決定するには、先づその一般的目的として、兒童幼兒の生活を能ふかぎり幸福に完全ならしむるやう注意しなければならぬ。それらの目的を達せんために、私は先づ兒童幼兒の社會的環境について要約して述べようと思

一、健康、健全な身體を持つことが子供に幸福なるものであることはいふまでもない。身體検査を有意義に行ひ、その結果を知らしめ、兒童をして健康上の知識を豊富にし、良習慣を得せしむるやうな、組織的な訓育をなすことが必要である。また赤十字社の如き國際的人道的施設の如きもよき材料であると考へられる。

二、趣味の教養、文學藝術等大作家の作品に接することは大なる幸福である。かくの如き教養は獨り社會の上流にあるものに限られた形式ではないのである。教育の初期に於ても唱歌、遊戲、談話、讀む事乃至は繪畫の鑑賞等によつて、この方面の教養に努めることは、最も意義ある教育といつてよい。

三、善なる意志、多くの人達の幸福を増す所の要素として善意志を重んずることは、これまで常に宗教家道德家の實踐し來つた所である。身體の健全なること、趣味の高きこと等は、何れも個人として社會としての向上を表明するものであるが、善なる意志は更に人類の幸福に於ける最も根本的なものであると推定することが出来る。このために我々は小學校及び幼稚園にあつても、善なる意志から互に助け合ふことを大切な事柄と見て居るのである。この精神はやがて近代社會に於ける相互扶助、權利、聯帶協同の理想にまで發展するものである。

四、社會奉仕の精神、大戰以後人類の幸福を増進する目的のために、社會奉仕の精神が唱道せられ、

何人も「奉仕」の仕事に參與することになつた。農業の機械を發明したものは、この事によつて耕作の能率を増進し、社會の需要に應ずるものである。かくの如き職業上の奉仕は多くの奉仕の中、最も重要なものであるといふことが出来る。同じ精神よりして、家庭の生活、公民としての生活、その他の協同生活のことが説明せられる。而して幼稚園及び尋常一年の教育精神の互に統一せられたる場合には、かくの如き社會生活の理會、社會慣習の尊重は、教育上誠に大切な環境となるのである。

(3) 心理的環境

次にソーンダイクに従へば、社會的環境にまで到達するために、我々は兒童の心理的所産について考へなければならぬ。

一、觀念と知識 この方面の傳達の教育的價值に關しては、——殊に低學年幼稚園について——今日やゝもすれば新しい皮相な教育者によつて等閑視されることがある。併しながら或る種の知識に豊富なることは、やがてその方面の能率に大なる影響を與へるものである。「知識は力である」とベーコンも云つた様に、知識は兒童にあつてもまた重要な力をなすものである。例へば健康を保つといふ事のためにも、知識が大なる要件をなすのである。今幼稚園尋常一年の教育を顧みると、知識を通して兒童の生活内容を豊富にすることが、屢々等閑視されて居る様である。元來兒童幼兒は知識を増すことの大なる可能性と要求とを持つて居るものである。實際上の事實に徴しても、知識内容を豊富にすることは、五歳より七歳位までの子供に既に多くの可能性を認められるのである。且これらの幼兒についてより多く教育されたといふのは知識もこれに伴つて居ることが多いのである。即ち小學校に於ては生活に必須な普

通の知識——讀方、書方、算術等——を重んずるものであるが、また幼稚園はそれらの事を遊戯やリズムの活動や談話等に於てなし得るのである。

二、習慣 幼稚園は更に習慣によつて、協同とか自制とか従順とか秩序とかの訓練を重んじなければならぬ。

三、理想 理想は或る行爲の形式についての觀念を明かにするものである。理想は行爲の指導者である。「早く寝ね、早く起きることは健康の本である」といふ理想は、正に子供の行爲を導くであらう。同様に幼稚園の幼児は「自分で着物を著るのは豪い」といふやうな理想を持つ。理想を以て導くことは、直ちに學校に於ける行爲や習慣に關するものであるが、またかゝる具體的の理想からして、漸次抽象的一般的理想に進むことが出来るのである。能動的な善なる意志の基礎として、かくの如き道德的理想の構成發展に至ることは、統一聯絡されたる幼稚園尋常一年の教育の重要なる機能となるものである。

四興味 興味については我々は之れを最も廣義に解して、生活の永遠の目的にまで資せんとして居る昔の教授に於ける如く、多く注入強制的な方法と、子供の興味に本づく方法と、その教育的價値の對照は歴然たるものである。愉快な旋律や遊戯による幼稚園の課程は、幼童に價値ある興味を起さしむるものである。かくの如き興味は幼児の行爲を決定する重要な機能を決するものであつて、幼稚園はすべての幼兒に社會經驗の型を暗示することが出来るであらう。協同生活乃至國民生活、科學、産業、音樂繪畫、文學、スポーツ等に至るまで、皆これによつて追求せられる。かくして我々は幼兒をして能率高き、趣味の深き、且役に立つ人になさうとするものである。(未完)